

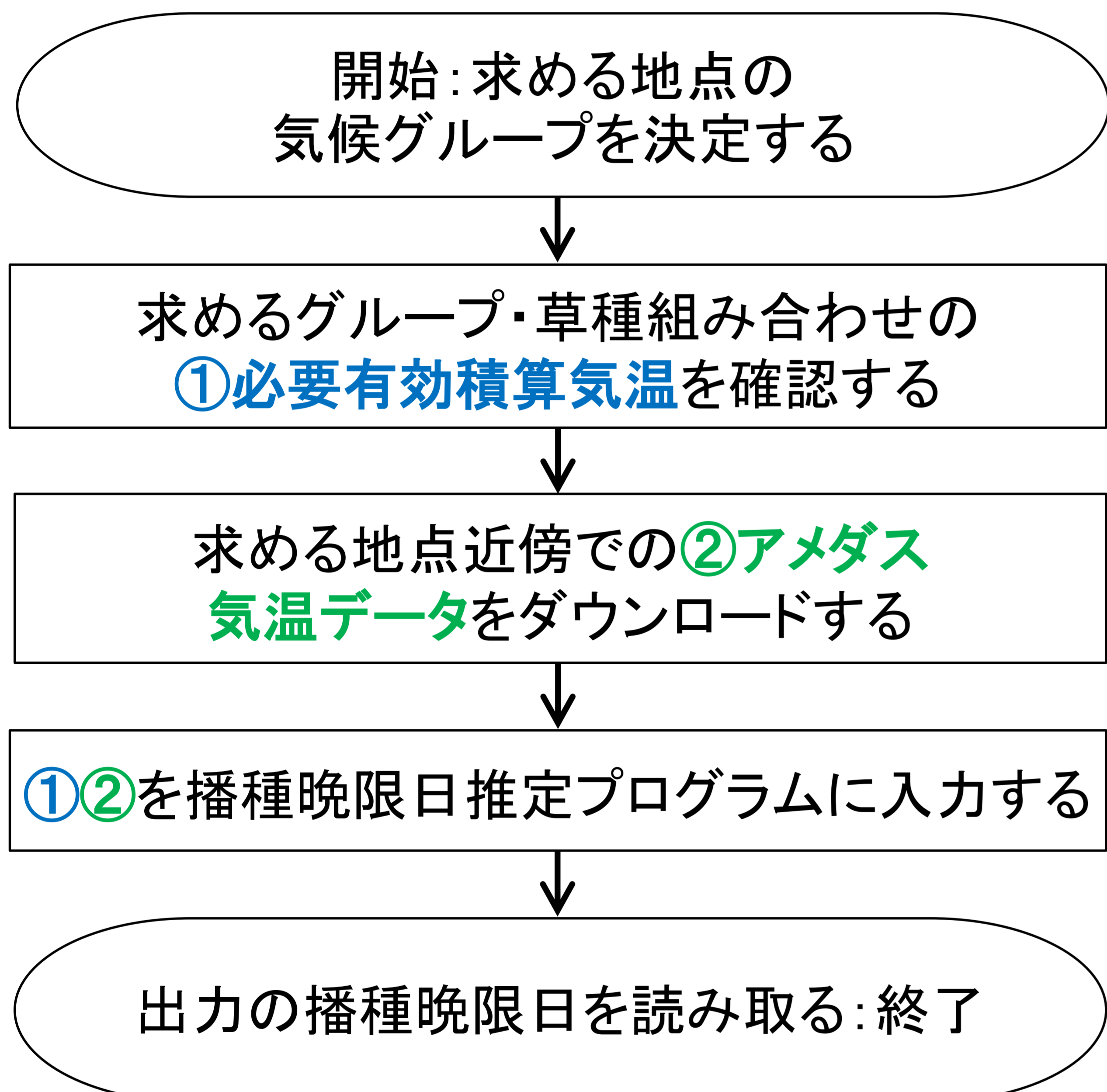
秋季温暖化に適応した牧草の夏季播種晩限日計算プログラム

農研機構 北海道農業研究センター、
(地独)北海道立総合研究機構北見農業試験場、根釧農業試験場

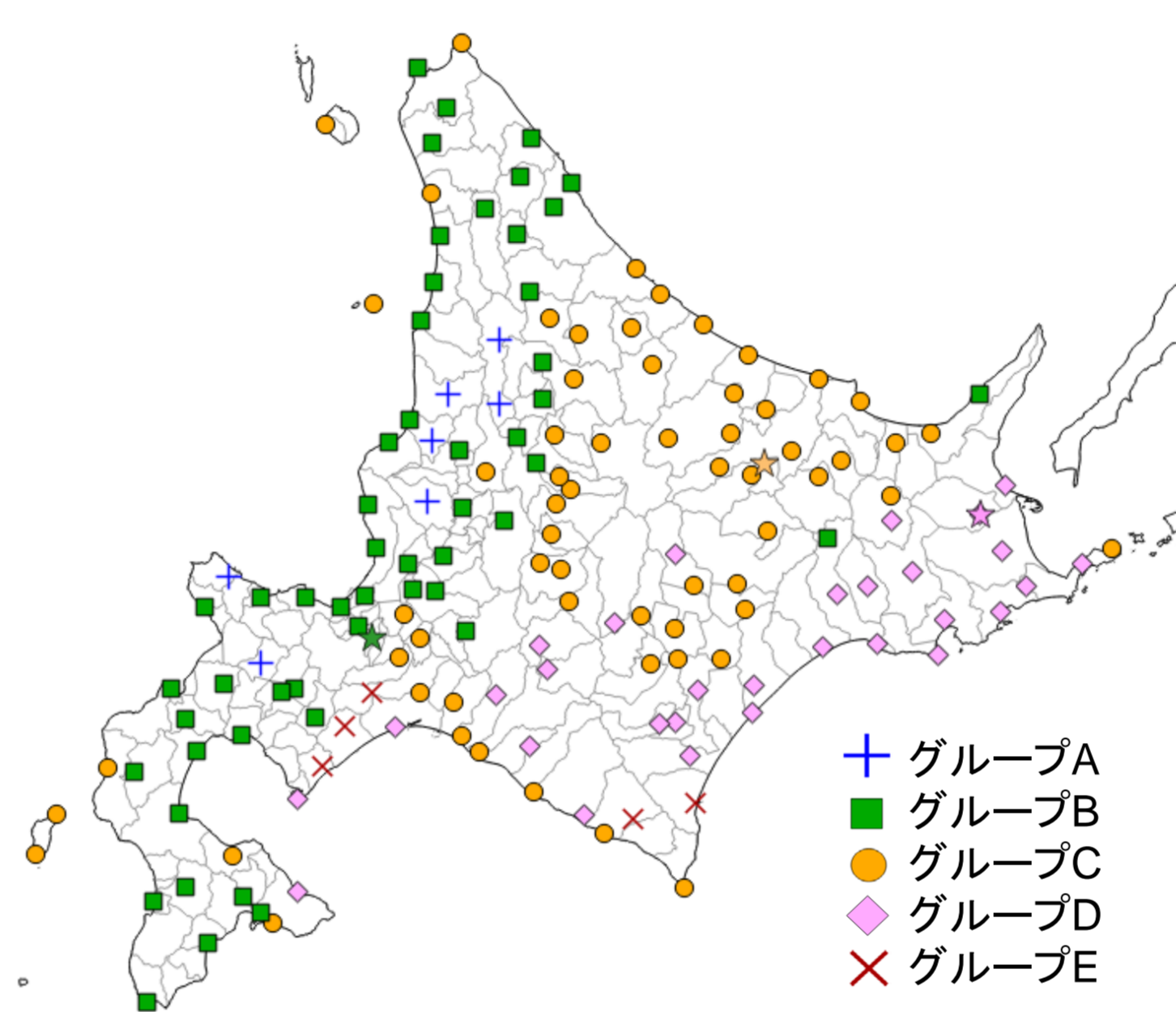


播種晩限日計算プログラムは、北海道内において夏季播種による安定した牧草生産を支援します。気候区分ごとの越冬前の必要有効積算気温を参照し、気象庁アメダス気温データを用いて希望する地点・草種組み合わせでの播種晩限日を求めることができます。

1 播種晩限日計算の手順



2 気候グループ分布と必要有効積算気温



統計的手法による気候区分
 グループB(A): 秋冬多雨多雪
 グループC: 通年で少雨
 グループD(E): 夏に多雨

必要有効積算気温一覧

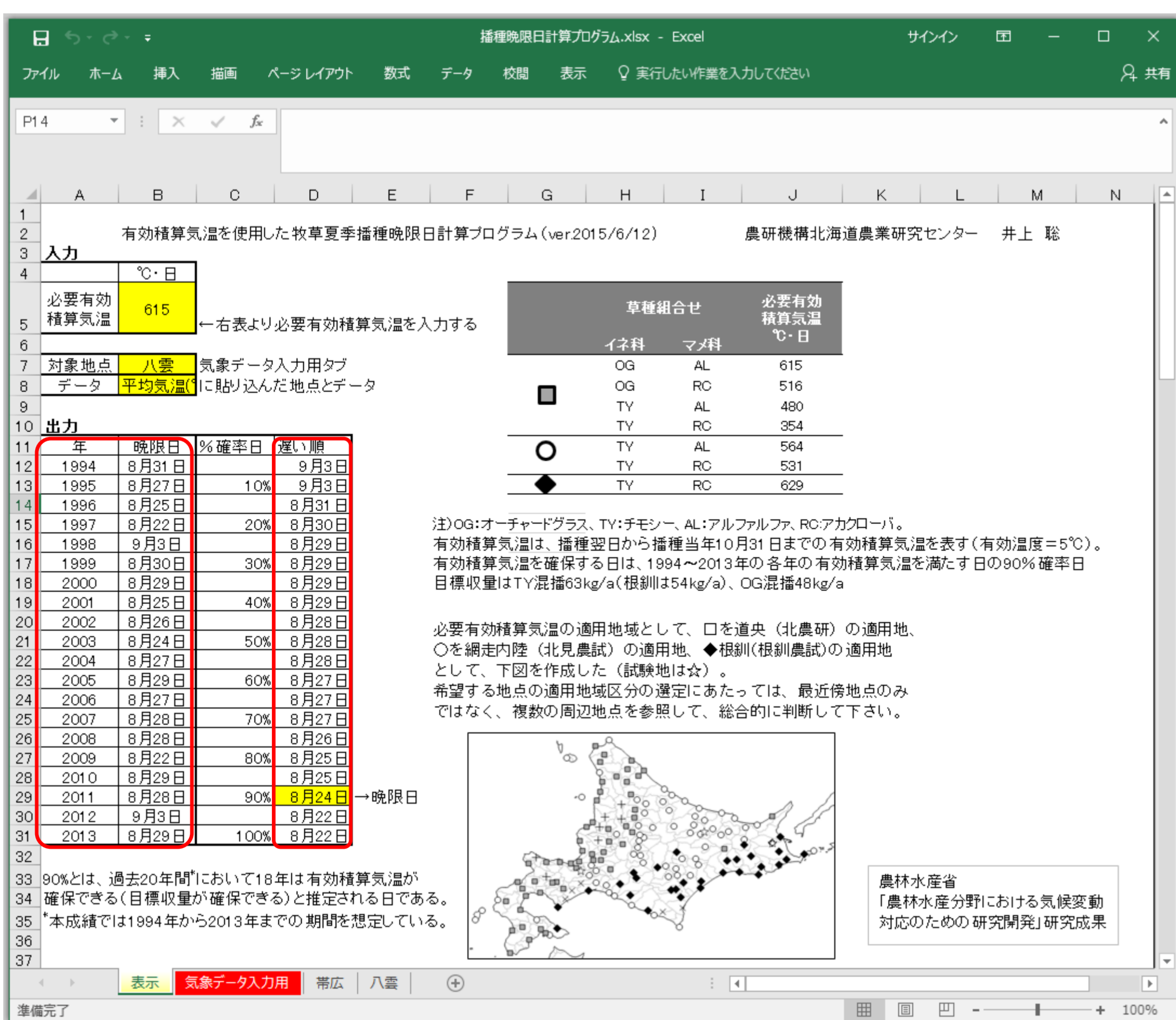
試験地 (グループ)	牧草種組合せ		必要有効 積算気温
	イネ科	マメ科	
北農研 (B) ■	オーチャードグラス	アルファルファ	615
	オーチャードグラス	アカクローバ	516
	チモシー	アルファルファ	480
	チモシー	アカクローバ	354
北見農試 (C) ●	チモシー	アルファルファ	564
	チモシー	アカクローバ	531
根釧農試 (D) ◆	チモシー	アカクローバ	629

有効積算気温は、播種翌日から播種当年10月31日までの有効積算気温を表す(有効温度=5℃)
 有効積算気温を確保する日は、1994~2013年の各年の有効積算気温を満たす日の90%確率日
 目標収量はチモシー混播630kg/10a(根釧は540kg/10a)、オーチャードグラス混播480kg/10a



札幌における播種期ごとの越冬前生育状況の例
 各播種期とも左からチモシー、オーチャードグラス、アルファルファ、アカクローバ

3 プログラム表示画面の例



各年の播種晩限日を表示する。
 10年に1回生じる低温時を除き、必要有効積算気温を確保する暦日を推奨する。

● 普及・社会実装への道筋

- 農研機構ホームページでプログラムおよび利用マニュアルを公開中
- 北海道北海道農政部「8月の営農技術対策」にて引用され普及指導に活用中
- (一社)日本草地畜産種子協会・北海道自給飼料改善協議会「強害雑草防除マニュアル2016(北海道版)」に引用され、普及指導に活用中

